



昭和25年以降は乗合バスが発達し、内之浦〜高山〜鹿屋〜垂水（鹿児島）と運行回数の増加に伴い、しばらくの間、鉄道旅客数が減少しました。

その反面、貨物の方は列車の定期化などで軌道に乗っていききました。

昭和30年にディーゼルカーが登場すると旅客便の運行回数も増え、乗降者数が少しずつ増えていき、さらに昭和38年には九州公豚社枝肉工場の専用線も開設。大隅産の新鮮な食肉が各地に出荷されました。

大隅高山駅は鹿屋駅に次ぐ主要駅となり、時代の先端を走る、内之浦宇宙空間観測所への表玄関として利用度が増え、昭和40年に駅舎を改築。駅前広場や駅前通りも整備され、隆盛を極めました。

昭和47年には海潟〜国分間を延伸開業し、全通。大隅線と名を改めました。

年	出来事
大正9年	高山駅として開業。 762 m軌間の終着駅。
大正10年	高山〜串良間の開業で 中間駅となる。
昭和10年	国鉄・古江線の駅となる。 大隅高山駅に改称。
昭和13年	大水害の被害を受ける。
昭和16年	上り貨物線を35 mへ延伸。
昭和21年	営林局専用線として 荒荷線を40 m延長する。
昭和28年	起重機電動化。
昭和32年	見通し不良対策として 下り場内信号機移設。
昭和34年	見通し不良対策として 上り場内信号機移設。
昭和38年	九州公豚社専用線使用開始 熊本営林局専用線廃止。
昭和40年	駅舎を改築
昭和46年	貨物営業廃止。
昭和47年	志布志駅〜国分駅間全通 古江線が大隅線に改称
昭和62年	大隅線の全線廃止に伴い 廃駅となる。